

は極左と共に此の陣營に打撃最も著しく、數次の左翼紛争、右翼への轉向者横出等に因る内部の混亂分派と、加ふるに右翼團體の進出は、勢ひ其の戦線に大なる打撃を蒙り、全く不振の状態に陥つたので、遂に組合買収の目的の下に昨年末組合を解散し、本年に入ると共に新組合組織の爲北九州に散在する舊大衆黨系の同志を糾合して、漸やく四月末八幡市に於て九州統一労働組合同盟を結成するに至つたのである。而して組合結成後は勢力の擴大強化策に努力してゐるので、漸次組合員を獲得しつゝあるも組合員中には相當過激なる急進分子を包含してゐる。本組合と共に舊大衆黨系に西部嶺山労働組合あり、筑豊炭山地方に於て總同盟系諸團體に對立して相當活潑なる運動をなしたつたのであるが、其の勢力未だ微々たるものであるが、本年十一月日本労働組合全國評議會の結

成に依る合法左翼戦線の統一は、此等左翼労働團體に相當の刺戟を與へたので、九州統一労働組合同盟を中心として全評の下に同派の統一運動成功するに至らば、不振なる左翼合法派の勢力も隨ては挽回の見込なしとせず。

う、組合運動の政勢と炭山地方の暴力事件

従来筑豊炭山地方は特殊の傳統的労働事情ありて労働運動の發展容易ならずとせられ、日本石炭坑夫組合を始め西部嶺山労働組合其の他二三の組合組織ありとは雖も、之れを北九州工場地帯の夫れに比較する時は其の運動極めて消極的にして至難の状態であつた。然るに大手筋炭山に於ける坑夫納屋制度の廢止や、或は亦婦女子入坑禁止等の如き社會政策の實施に伴ふ地位の自覺と共に、最近のインフレーションに因る炭山地方の活況等は永らく眠れる炭坑労働者も、密かに待遇改善を